

## サンルダム早期本体着工と完成を求める意見書

北海道第2、全国第4の長大河川の天塩川は、北海道北部における社会、経済、文化の機軸をなす重要な河川であり、北海道遺産にも選定されております。

天塩川流域では、水系の恵みによって、主に稲作、畑作、酪農のほか河口部では漁業が盛んに行われておりますが、開拓以来幾たびとなく洪水が発生し、家屋や農地に甚大な被害をもたらしてまいりました。

また、近年では、今年に入り5月には、低気圧により多いところで40ミリメートル程度のまとまった雨と融雪による出水が重なったこと、さらに10月には、発達した低気圧に山沿いの多いところで総雨量が200ミリメートルを超える雨が降り、河川の水位が上昇し、天塩川水系名寄川では危険水位を超過したのをはじめ、各地で警戒水位に達するなど年間2度も出水被害に見舞われ、地域住民に多大な脅威をもたらしました。

このような状況下、流域における住民の生活安全と農業など、経済活動の安定を期するためにもサンルダムは極めて重要な多目的ダムと位置づけられており、流域や地域の住民にとって大きな期待を寄せているところであります。

現在、道道下川雄武線の付替工事が鋭意進められておりますが、昭和63年の実施計画調査以来18年の歳月が経過している今、天塩川水系河川整備計画策定を急ぎ、一刻も早く多面的機能を有するサンルダムの本体工事を着工し、完成させることはこれまでも増して緊急の課題であり、実現について強く要望するものであります。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

平成18年12月15日

名 寄 市 議 会